

南丹地域における京の畜産応援隊による畜産農家への経営改善支援

南丹家畜保健衛生所

○今峰謙 宮城信司

【背景】府内畜産農家が担い手不足や高齢化で減少する中、京都府では、関係団体、関係機関等オール京都で担い手の発掘から定着、更に経営の安定支援までを一貫して支援する「京の畜産応援隊」を令和 3 年 12 月結成。コロナ禍以降の飼料高騰など畜産を取り巻く厳しい情勢を打開するため、令和 4、5 年度に畜産農家の経営強化・改善等を支援するために緊急対策事業が創設され、京の畜産応援隊の役割として伴走支援を実施。【取組概要】管内の事業対象農家に対し、寄り添ったきめ細やかな支援をするため畜種毎に担当者を定め、最も適した経営改善策を農場と検討。その後、事業に係る申請書類の作成から実績報告に至るまで支援を実施。【成果】管内農家の活用率は、令和 4 年度 80%以上、5 年度 90%以上。主な事業内容は、夏場の細霧装置や換気扇導入等による生産性向上、自給飼料の利用・増産による飼料費低減、飼料搬送機導入等による作業の効率化、LED 照明設置による光熱費削減であった。総事業費は府全体額に対し、令和 4 年度 55% (279,856 千円)、5 年度 56% (106,154 千円)。事業を活用した農家から経費節減、経営の立て直しに役立ったとの声が聞かれ、廃業する農家はなかった。また、職員から本事業を通じ、農家の窮状を知り、経営の強化・改善策を考えることで農家との繋がりが一層強化された。【今後の取組】令和 6 年度も引き続き伴走支援を行うとともに担い手の発掘・定着にも取組強化を図りたい。